

## セクシュアルマイノリティと医療福祉教育を考える全国大会2025活動報告

### 「万博のアクセシビリティにおけるLGBTQ+当事者委員としての関わり」 新設Cチーム企画(アクセシビリティチーム)

#### 新設Cチーム企画の活動

当会は2007年から大阪を拠点として、LGBTQを支援する動画や教材を作り地域の当事者や教育機関に発信しています。長年培ってきたノウハウとネットワークを基盤にコミュニティ作りに貢献します。

2022年からは、近畿運輸局や大阪万博の当事者委員としてオールジェンダートイレ設置や包括的接遇などの推進・啓発に携わっています。この発表では万博での当事者参画の取り組みで行ったことと成果を紹介します。

#### その他の活動

- 小学生向けSOGIESCを包括した性教育教材プロジェクト
- LGBTQ+の健康とスポーツ・運動環境
- ろう者をはじめとする障害のあるLGBTQへのサポートや情報保障の啓発
- LGBTQ+フレンドリーな医療機関を開拓、リスト化を目指すプロジェクト
- 教材、ワーク開発・海外資料翻訳・調査
- 研修・講師派遣・研修講師育成・多様性コンサルティング

#### 新設Cチーム企画の万博に対するスタンス

万博に当事者参画の委員として関わっている多くの障害当事者委員の方々と同様に、新設Cチーム企画は、万博自体の開催を支持していません。

しかし、万博はその後の社会のまちづくりに少なからず影響を与えるものです。従って、万博自体には賛成できないが、万博後の社会のアクセシビリティを少しでも良いものにできるのならと思い、LGBTQ+の当事者委員を引き受けることを決めました。

#### (1)交通アクセスに関するユニバーサルデザインガイドライン検討会

ガイドラインの目的の文言にあった「性別」を「SOGIESC」に変更することを要望し、ガイドラインの文言に加えられた。また、LGBTQ+のニーズやオールジェンダートイレの必要性について発言し、交通アクセスに関するユニバーサルデザインガイドラインに反映された。参照：[交通アクセスの検討状況](#)

- 「本ガイドラインは、国・地域、文化、人種、SOGIESC(※1)、世代、障がいの有無に関わらず...」(P1)
- 2. ガイドラインの考え方の中で「様々なニーズにより恩恵を受ける人」としてLGBTQが明記。(P6-7)
- 3-4-3. 施設・設備(1)トイレ「・車いす使用者便房以外にオールジェンダートイレを設ける。」(P133)

#### (2)大阪ヘルスケアパビリオンユニバーサルデザイン検討会

「ミライのトイレ」をテーマに様々な当事者によるグループワークに参加し、設計時にオールジェンダートイレを主流とすることを要望した。展示等に関しても性別の選択肢の配慮、ノンバイナリーな表現、多様な家族を前提とすることを要望した。その結果、半数以上の便房がオールジェンダートイレという画期的なトイレのレイアウトとなった。

参照：[ユニバーサルデザインの取組み](#)

[みんなでトイレプラン作成チャレンジ](#)

[「LGBTQ+とまちづくり④大阪パビリオン 編」ウエキチch.](#)

(3) 日本館におけるユニバーサルデザイン意見交換会

トイレのレイアウト設計の段階から「未来の社会を模索する万博として、新しい試みがなされるべきである」という意見を表明し、男女分け空間のない、オールジェンダートイレの設計を要望した。その結果、4箇所のトイレの内、1箇所が男女のエリア分けのない全個室タイプの設計となった。

(4) 交通事業者のバリアフリーソフト対策検討会

「交通事業者向けバリアフリーサポートBOOK」の制作

LGBTQ+に対する偏見や誤解が多いことから、各交通機関での嫌な経験が多いことを指摘し、LGBTQ+についての章立てを要望した。また、当事者へのヒアリングとアンケート調査に協力した。当会の調査(LGBTQ+と交通機関に関するアンケート結果報告(2022))をもとに、LGBTQ+とSOGIESCについての説明、「LGBTQ+の困りごと」と「接遇時に気を付けて欲しい点」について当会がまとめたものが、4ページのコラムとして掲載された。

参照: [交通事業者向けバリアフリーサポートBOOK](#)

[「LGBTQ+とまちづくり⑤サポートBOOK編」ウエキチch.](#)

(5) 夢洲駅及び弁天町駅のアクセシビリティガイドラインに関連する意見交換会

夢洲駅構内のトイレレイアウトに関して、従来の男女別トイレとオールジェンダートイレの割合を反転させ、オールジェンダートイレが半数以上を占めるような画期的なトイレのレイアウトを要望した。要望を受け、バリアフリートイレが6箇所の設計となった。これは万博後も確実に残る万博の良い遺産と言える。

動画: [関西の鉄道ではじめてのオールジェンダートイレ](#)

(6) ユニバーサルサービス検討会

接遇について、万博のスタッフ・ボランティアに対するeラーニング研修においてLGBTQ+や性の多様性に関する正しい知識の習得の必要性を示した。研修内容として、当会が制作した教材やジェンダーについて考える動画を資料提供を行った。また、講義が15分ということに対し研修の拡充を求めた。現場研修については、LGBTQ+当事者の話を直接聞く時間や、多様な家族やセクシュアリティを想定した対応、トイレでのトラブルに関するロールプレイを提案した。また、接遇研修の内容が、ガイドラインに準拠した内容になっているか研修委託団体・企業に確認するよう博覧会協会に要望した。接遇の場面での必要事項をまとめた「[来場者にLGBTQ+の人々もいることを前提にした、包括的な対応と注意点](#)」を作成し研修団体に引継ぎを行った。

大阪市交通バリアフリー基本構想推進協議会

新設Cチーム企画のアクセシビリティチームでは、万博の他にも大阪市交通バリアフリー基本構想推進協議会にも当事者委員として参加しています。大阪市の各区でアクセシビリティを向上させるための見直しが行われており、街歩きに参加して意見を述べています。オールジェンダートイレの設置を提言するため、バリアフリートイレ200箇所以上を現地調査し、地図にまとめるという地道な取り組みも行っています。

興味がある方は是非ご連絡下さい！